

呑川レポート2011-22号 都表彰節電と呑川ホタル

前回の呑川レポートで「オオシオカラトンボ」の「打水産卵」を報告しました。その感想で、「せせらぎ公園」でなく「呑川」でも見られますか？とのご質問をいただきました。

「呑川」でもトンボたちの産卵は盛んに行われています。ただ、私の見た範囲では「オオシオカラトンボ」の打水産卵は見つけていません。呑川で「打水産卵」をしているトンボは、「シオカラトンボ」ばかりのようです。（私が「オオシオカラトンボ」を見つけていないだけかもしれませんが・・・）

呑川で比較的に見やすいトンボの産卵風景は、「ギンヤンマ」です。だれでもすぐに見つけられますので、どうぞご覧ください。

いずれにせよ、「せせらぎ公園」のように間近では見られなく、河床までは5～6mもありますので、良い撮影はなかなか出来ません。

さて先日（2011/7/27）、「河川愛護月間」にちなみ、「東京の川を考えるシンポジウム 2011」が開かれました。

「東京都建設局河川部」による催しで、場所は東京都庁の都民ホール（都議会議事堂1階）です。

「身近な川、都市の川」と題した、芝浦工業大学の守田教授の講演は、なかなか興味深く、私も都市河川に対する認識を新たにしました。



実は、この場所で「東京都河川ボランティア表彰」が行われ、我が「呑川の会」も表彰を受けたのです。

大坪代表が表彰状を受け取りました。



この世紀の瞬間を逃すまいと、工藤事務局長がビデオ撮影に集中しています。

前に並んでいるのは吉田さん、武富さん、そしてその後ろに、区議のもり愛さんが写っています。

男性の議員は「はったり」をかます人も多く、そのはったりで自分を偉く見せるような所がありますが、

このもり愛さん（民主党）や、同じく「呑川の会」会員の奈須りえさん（生活者ネット）ら女性議員は、

そういうところが微塵もなく、誠実で一生懸命、勉強熱心なところが共感を呼ぶのだらうと思います。



表彰を受けた後、大坪代表が呑川の会の主な活動を紹介しました。
「都民ホール」は、さすが大きく広く、ゆったりとした会場でした。



最後にみんなで記念写真・・・
向かって右から工藤・吉田・もり愛・大坪・武富・高橋です。

今回の表彰は、大田区環境保全課の推薦を受け、都の審査で受賞となりました。
「呑川の会」が創立したのは1997年、都の「清流復活事業」が完成した年です。
あれから14年、都市河川の市民活動では、歴史と伝統がある部類になりました。
関係各方面のご尽力をいただき、深く感謝したいと思います。

話題は変わり、今夏は「福島原発事故」を受け、「節電」が大きな課題になりました。これは「呑川」にとっても、「呑川水系」にとっても無縁ではありません。



夏に入って、呑川の中流・下流域は水の汚れが目立つようになってきました。ですから、とりわけ河川の「流量確保」は重要な課題になります。

まして、西蒲田地域は悪臭問題を抱えていますから、なおさらと言えます。



すでにご存じの方も多いと思いますが、呑川は「落合水再生センター」の「高度処理水」が

供給され、その基本流量となっています。

この場所は、川の「蛇行」がキチンと見られる、子どもの「川学習」にとって重要な場所ですが、

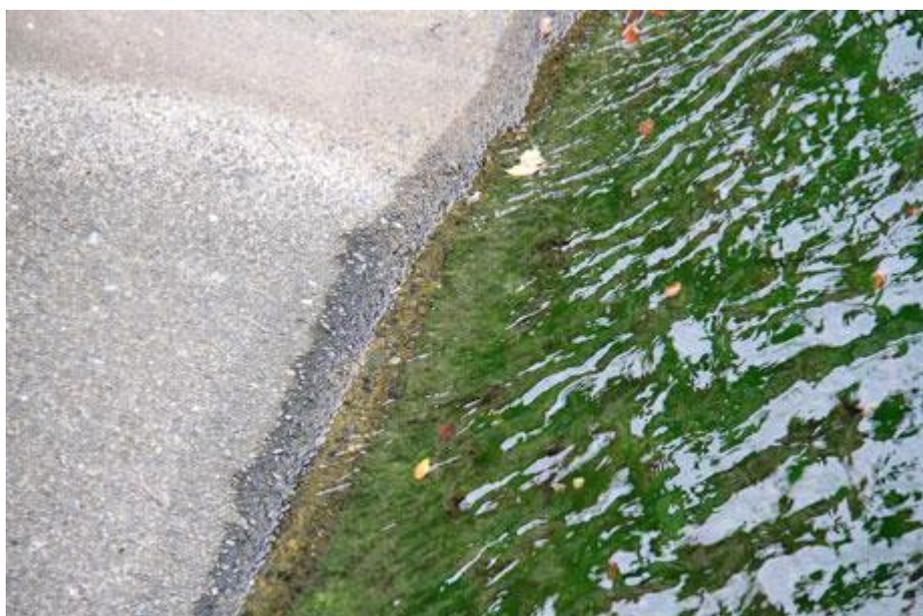
ここで見られる流量が、呑川の基本水量です。



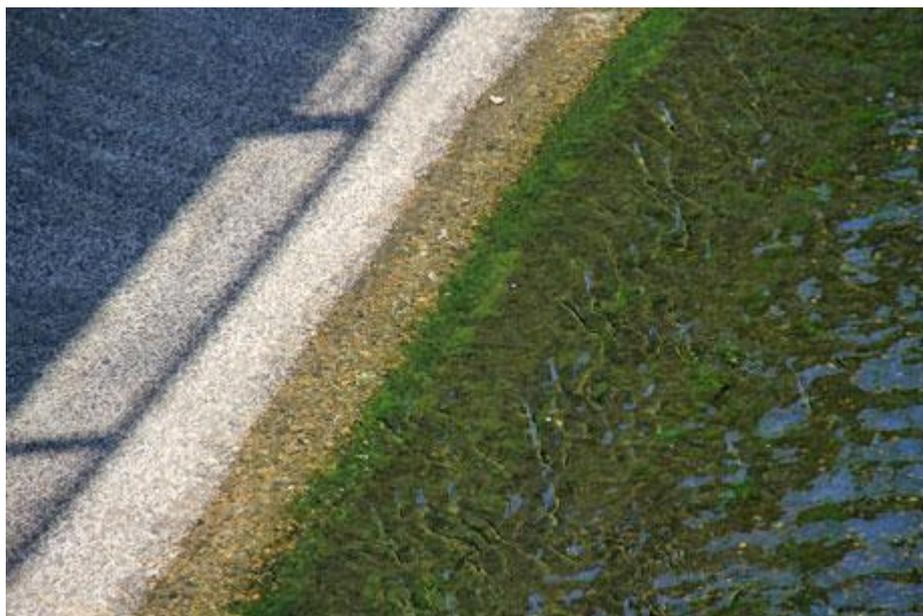
呑川の河床をよく見ると、おおまかに3本の線が判別できます。
これは一番流量が少ないときです。

今夏の「節電」で、処理場で「高度処理水」を作る機械の一部が止められると、
この「少」の位置までしか水は流れません。

日常的には、「中」の位置まで流れることが多く、ここまで河床の藻類が生えています。



「中」の位置の流れは、だいたいこんなイメージで水が流れています。



また流量が多いときは、藻類の生えているラインを大きく越えて、流れます。
こういう時もしばしばあります。

流量が少ないときの原因は、「節電」もあるでしょうが、大雨が予測されるときは水量を制限するようですし、機械の故障やメンテナンスの時も水量が減ります。
過去にも都の経費節減で、水量が半減したことがありました。

前回の「呑川をきれいにするための意見交換会」（2011/6/30）でも、大田区の方が強調されていましたが、「節電」という課題があるにせよ、流量を減らさないよう都に強く要請
しているとのことでした。

その結果もあるのでしょう、現在はなんとか従来の流量が維持されているようです。
ただ、これからは「盛夏」の時期を迎え、予断はなりません。
西蒲田地域の方々の苦勞を考えると、なんとかして流量を維持してもらいたいと願います。

話しは横道にそれますが、最近の節電キャンペーンは「思いつきの」で、人を迷わすことも
多いのを感じています。
たとえば、冷蔵庫を開けたとき、冷気が漏れるのを防ぐため、中にビニールのカーテンを垂らすなどというものです。
TVでしばしば紹介され、コメンテーターなども「それはいいですね」などと言いますから、
多くの方はそれで納得し、何も疑問を挟まない「思考停止」になってしまいます。

しかし冷蔵庫にビニールのカーテンを張れば、冷蔵庫のドアポケットに冷気は

行かなくなります。

缶ビールが少し冷えなくなるぐらいは被害はありませんが、このドアポケットにはマヨネーズやトマトケチャップなども多く入っていると思います。

それらは充分冷えなくても大丈夫でしょうか・・・

現在の冷蔵庫はかなり前から省エネになっており、食品の鮮度を保つギリギリの温度設定に

なっていることが多いそうですから、変なカバーを垂らせば、ドアポケット側の鮮度保全機能は

大きく低下してしまいます。

最近、いろいろの面で安易な「一般論」が横行し、それによる「思考停止」が起きていることを

危惧しています。

しかし、最近はどこかの「100円ショップ」でも、冷蔵庫用ビニールカーテンは売られていますから、

「きっと、それはいいに違いない」と「思考停止」になってしまうのは仕方が無いのでしょうか・・・

さて、話しを本題に戻し、「節電」の課題は、呑川「本流」だけでなく、呑川水系の「支流」にまで

及んでいます。

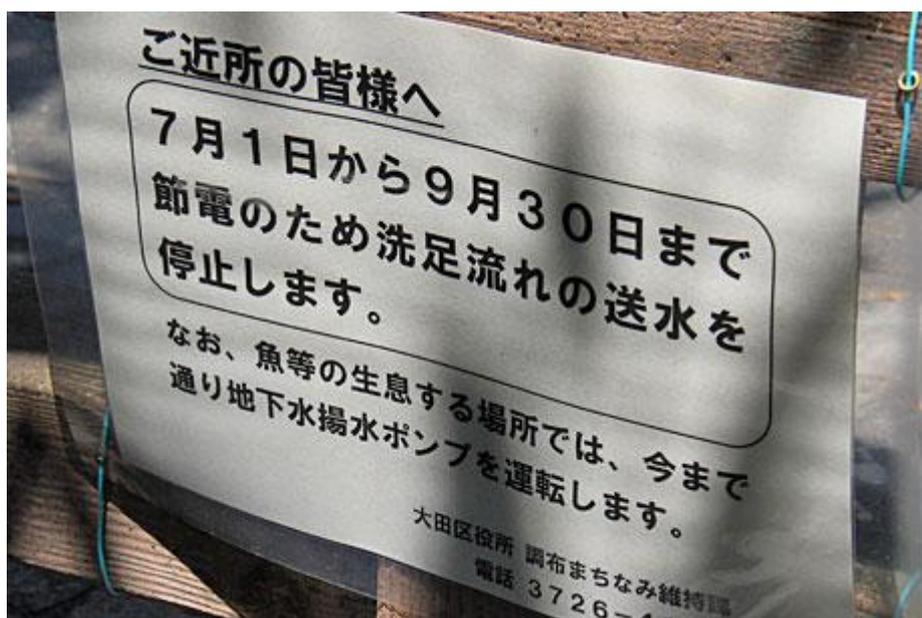


ここは「洗足流れ」です。

洗足池の水が呑川まで注ぐ、昔からの呑川支流です。



しかし、この「洗足流れ」に今は水が流れていません。
どうしたことでしょう・・・？



こんなアナウンスが張られていました。

「節電」のため、夏の間はポンプを止めているそうです。
「洗足流れ」には、魚やホタルのいる領域がありますから、水が無くなるのを心配しましたが、
その領域は地下水を汲み上げて確保しているようです。

先日、この「呑川レポート」で、洗足流れの「ホタル観察会」（2011/7/10）を呼びかけましたが、
私を含め5人でホタルを見に行きました。



「ヘイケボタル」が草の葉に捕まって、静かに、とてもきれいに光っていました。
その内、2頭が急にふわっと飛びました。

見えるでしょうか・・・

写真で見ると、どうもパツとしないのですが、これがその時の光景です。
実際に見るホタルは、とても幻想的で美しいものでした。

「節電」の中でも、ここには水が維持され、呑川本流でないにせよ、呑川支流で、
呑川水系でホタルが見られるようになったことは、うれしい限りです。

「ホタル」の棲む環境への取り組みは、この他にも行われています。



ここは呑川の水源の一つでもある「洗足池」です。
ここに今年になって、ホタルの棲む水辺環境「ホタル池」が作られました。



ここにこんな看板が立っています。

「ホタルいます」と、いかにも誇らしげです。

大森六中の自然科学部の子どもたちが、ホタルの幼虫を育て、放流したのです。

「ぜったい 自生」とも書いてあります。

この場所になんとしてもホタルを自生させようとの、若く強い意気込みが感じられます。

ちょうどこの看板に、シジウカラが止まって、とても可愛らしくてパチリとシャッターを押しました。



ヘイケボタルは、見たことがある方は判ると思いますが、田んぼのアゼなどでよく見られます。

ヘイケボタルが居付くようになるようにする、自生するようになる・・・には「田んぼ」の環境があることはとても重要です。

そこで、この「ホタル池」に隣接して「田んぼ」が作られました。
この田んぼは「赤松小学校」の子どもたちが田植えをしました。
そしてこの田んぼは「おおたく環境探検隊」がサポートを務めています。



「洗足池」の夕暮れは、とても美しく、ここを広重が浮世絵に描いたのも良く判ります。もう少し暗くなれば、きっとホタルが飛び始めるでしょう。ここでは、私はまだ確認をしていないのですが、風の便りに「ホタルが飛んだ」と聞きました。大森六中の子どもたちは、きっと大騒ぎをしているかもしれません。

洗足池の「ホタル池」を指導されたのは、「横浜ホタルの会」会長の丸茂高さんです。「おおたく環境探検隊」では、この丸茂さんをお招きし、ホタルの魅力や、それをはぐくむ水辺の実際についてお話をお聞きします。せせらぎ公園でのホタルの自生についても、その可能性を探ります。

この講演会に、どうぞ、こぞってお越しください。

「ほ ほ ほたる来い 講演会」

2011年8月21日（日） 10時～12時
「田園調布せせらぎ公園」 休憩所2階 多目的室にて

(せせらぎ公園は、東急線「多摩川」駅前です)

講師：丸茂 高 氏 (横浜ホテルの会 会長)

主催：おおたく環境探検隊

共催：大田区

*大田区平成23年度地域力応援基金助成事業(ステップアップ助成)で実施します。

-----photo essay by-----

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com
